

令和7年度 島根県立石見養護学校 第1回 学校運営協議会 【報告】

R7.6.6(金) 教頭

日時 場所	・ 令和7年6月6日(金) 石見養護学校 会議室
参加者	・ 学校運営協議会委員 6名(4名欠席) ・ 校長、事務長、教頭、学部主事、寄宿舎指導員長、地域連携担当 7名
議事	・ R7 グランドデザイン及び学校運営方針、重点目標 【校長より】
説明	・ 各学部の紹介と今年度の取組 ・ 重点目標説明
意見交換	・ 自由意見交換と質疑応答

意見交換内容	
地域連携	・ 月曜日から金曜日、日中の活動では社協等で色々な活動をしている。交流という形で参加すると地域の活動を知ることが可能。 ・ 各地区の公民館等に問い合わせると平日企画されている活動あり。土日に行われるイベントの下準備として、平日にくさかり隊が会場づくり等を手伝うことができるのでは。 ☞地域の活性化は色々な人が活動できることだと思っている。情報発信も必要で、地域に見えれば結びつく活動が出てくるかもしれない。雲井の里では、木工と窯業の陶芸作品を販売していて、展示もしている。 ☞ハンザケ自然観には外国から来られる方もいる。ただお土産がなく、オオサンショウウオにまつわる作品を作って販売できないかと協議している。 ☞学校でやっていること、特色あることや特徴を際立たせることを地域連携に役立ててはどうか。そのことでアウトプットしてお土産として提供できるなら良いが、地域貢献ありきになると本末転倒なので、学校のために協力してくれるという形の方が良い。 ☞地域連携の方向性をどこにもって行くかによってやり方が変わってくると思う。しっかりと話し合いをして方向性を確認することが大切。

スマホの使い方	・卒後、スマホに依存し、仕事ができなくなる例がある。学校での対策は？ ☞学校での使い方については、ルールを定めてはいるが、ルールの意味合いの理解が難しいこともある。職業の授業では、情報セキュリティのことを取り上げている。外部機関にネットの危険性について話を聞く機会を作っていく必要も感じている。 ☞小学校から一人一台端末の時代になった。セキュリティ対策で「これをやったらダメ」と禁止事項を教えることが多かったが、今からは自分たちで危険を察知する力をつける必要がある。AIの発達は速く、学校で今習っていることも、社会に出た時に通用するかはわからない。危険を察知した時に周りの大人に伝える等、対処方法を知っておくことが良い。 ☞詐欺など誰もがひっかかる。性や金融、詐欺の手口等、社会に出て気を付けることを在学中に学校で教える。
コミュニケーション	・重点目標にコミュニケーションが大切とあった。地域の方とのコミュニケーションをどうとっているか、それによって生徒のコミュニケーション能力も上がるのではないかな。
進路	・製造業は、以前は手を動かせば仕事になっていたが、今は技術レベルが高い仕事になっている。コミュニケーション能力を求められる会社や、思いやりのきもち、人間力を求められる職場への就職を考えてはどうか。 ☞いろいろな力がある生徒がいる。本人が興味関心をもって基本的な働く力を高めてほしい。製造業も進化している。今後の進路指導に生かしていきたい。 ☞適材適所、うまくはまればいい。 ・成人年齢が18歳になったが、18歳と20歳で、できることとできないことがある。年齢によって違うことを学校で勉強しても良い。細かいルールを継続して教えてもらうと良い。 ・就職で一番思うのは窓口が少ないこと。障がい者枠で狭まる。在学中に1つでも多く職場を経験してほしい。その子が何をできるか見つけてほしい。選択肢を1つでも多く抱えてほしい。そのあたりを検討して行ってほしい。子どもが自立してくれるのが親の目標。 ☞いろいろな職種を経験するとマッチングすることもある。実習の行先を増やすとうまくはまる率は上がるだろう。